



# 響

～ KOURU ～

# 流

諸行無常  
しよぎやうむじやう

土浦市全国花火競技大会は打ち上げ数二万発を誇り、全国でも有数の花火大会に数えられる。

諸行無常という言葉がある。あらゆるものは縁の世界の中でうつり変わってゆく。一瞬の輝きを放ち、暗闇の中に消えてゆく花火そのものようだ。消えてなくなることには焦点を当てると寂しさばかりが募る。しかし、移り変わればこそ様々なものを魅了する瞬間の輝きがあるとも言えるのではないか。諸行とは存在する一切のものであり、私もまた無常の内を生きている。何気なく過ごす日常は、私にとってありきたりなものであり、特別な非日常に価値があるように思える。

日常も、非日常も移り変わる瞬間を生きている。今のこの時も、あの夜空に輝く大輪の花火のように。

ひたちなか市清心寺増田廣樹



# ひと



レクリエーション活動 × 茨城東組総代会会長

## 榎村 健一 さん

地域でレクリエーション活動をされている

茨城東組総代会会長の榎村健一さんにお話を伺いました。

### レクリエーションとの出会い

私が日立製作所に勤めていた時、先輩にレクリエーションの活動を勧められたことが始まりでした。レクリエーション協会に入ること、インストラクターの資格を取ってみたいかと誘われたんです。それがきっかけで、友達と一緒に資格を取りました。

最初の活動は、職場でのコミュニケーションの一環で色々な遊びを企画するボランティアでした。会社の中に「日立会」という遊びを企画する組織があって、仕事をしながら、いつでも、どこでも、誰でも楽しんでもできるようなスポーツを企画する活動でした。

### 社内から地域へ

たまたま、地域の方と連絡を取っている中で、ひたちなか市の笠松運動公園でのレクリエーションをお願いされたことがありました。そのとき企画したのが、子供たちと公園の森の中でクラフトをするというレクリエーションです。日曜日の朝から夕方まで、子供たちと森でどんぐりや木の枝などクラフトする材料を拾い集めて、思い思いに作品を作ってもらっています。子供たちが熱心に作ってくれば一時間に一つは作品が作れますね。最初のころは、どんぐりなどそのまま使うと虫が出てきてしまうものもあって、作品にする前に茹でなきゃいけないということも、活動を通じて知りました。子供と一緒に大人も学ぶことが沢山あります。

クラフトを教えるとき、保護者の方には「家庭で食べるものの種など、普段捨ててしまうものを取っておけば遊びに使えますよ」とお伝えしています。この活動を通じて、どんなものでも遊びに使えるんだ、無駄なものはないんだってことを、子供たちに感じてもらいたいです。

### 共に楽しむこと

レクリエーションで大事なものは、相手も自分も楽しむということ。最低限の準備だけをして、あとはみんなで楽しさを発展させてゆく。その時の相手によって遊び方は変わって良いんです。こちらから「あやれ、こうやれ」ではなく「そうだね、それは良い考えだね」とみんなで一緒に面白くなる方向を考えていきます。そうすれば、自分も楽しくなるし自分が培った技術を教えて、誰かが喜んでくれる。お互いが楽しさと喜びを感じることが出来る、そんな活動にしていきたいと思っています。自分が、ほかの誰かの生活を支えることはできないかもしれないけれど、何かつらい思いを抱えている方が、レクリエーションの時だけでも、そのことを忘れて楽になってくれたら嬉しいですね。



### レクリエーションを通じて

レクリエーションをやっていないければ、今のようない人付き合いはできていなかったと思います。見えないかもしれないけれど、人見知りなんです(笑)。しかし、レクリエーションを通じて沢山の人と関わりあう中で、楽しさを共有することの素晴らしさに気づくことが出来ました。

### 後記

レクリエーションを通して学んだことを心に据え、現在は茨城東組総代会会長としても活躍されている榎村さん。

今回お話を伺い、遊びを通して楽しさを分かち合い、相手のところに寄り添うことの素晴らしさを学ばせて頂いた。わが身を振り返ってみると、自分自身のことでも手一杯になって、他の人のところに寄り添えていない私に気づかされる。嬉しい時も悲しい時も、常に私のところに寄り添ってくださる如来さまのほたらきに、手を合わせていきたい。

聞き手：行方市 豊安寺 板敷諒



### Profile

かしおら けんいち  
榎村 健一

趣味・特技：森のクラフト作り  
好きな言葉：真理・人生・青春



# ほうしゅざん せんこうじ 宝珠山 専光寺



館山六宇の祖 専光寺は、ひたちなか市館山（那珂湊）にある真宗七カ寺のひとつであり、その歴史は室町時代まで遡る。開基は清和源氏の檜山義忠（ひやまよしただ）。念仏に帰依し名を「釋了周」と改め、元龜元年（一五七〇）に那珂郡枝川村に専光寺を開いた。その後、元禄九年（一六九六）、水戸藩藩主 徳川光圀の寺院整理の折に現在の地へ移動した。

一番の危機は江戸末期の元治元年（一八六四）八月の元治甲子の乱（天狗党の乱）である。「那珂湊の戦い」に巻き込まれ専光寺を含む館山の真宗寺院は兵火を受け本堂を含む一切を焼失、加えて廃仏毀釈政策によりお堂を焼失した館山七カ寺はお取り潰しの危機を迎えた。しかし、当時の住職「潤量」を中心に門信徒一同のご懇念が結実し新たな茅葺屋根の本堂を現在の庫裏前墓地付近に建立。この本堂は昭和二十八年頃まで浄光寺を除く館山真宗寺院共有の本堂「共有堂」として機能しており、これにより六カ寺は廃寺を免れた。



印象的な正面の門は寺基移転三百五十年記念として平成九年に建立、山門上部に梵鐘が取り付けられている鐘楼門であり、お礼参りの際等には鐘を突くことができる。

その他、市内でブルーベリー農園を運営、自家産のフルーツを使ったジャムやコンポートを取り扱っている。

本年、新たな取り組みとして副住職が本堂脇に『不源庵』という茶室をオープン。自家焙煎した香り高いコーヒーをこだわりのカップで頂くことができる。厳選されたコーヒー豆は買い求めることもできる。（ブッダブレンドはインド・ガテマラ・タンザニアのブレンド）

現在の住職は十五代目。京都の龍谷大学で真宗学、本願寺勤式指導所で声明と雅楽を学ばれ専光寺に入寺。その後も東京の築地本願寺雅楽会へ通い宮内庁の先生より十五年ほど雅楽を習われた。ご門徒皆様に寄り添うことを大切に、専光寺を護ってられる。

聞き手：水戸市 安楽寺 澤田唯

茨城東組広報誌『響流』第十六号  
二〇二三年九月発行  
発行／浄土真宗本願寺派茨城東組実践運動  
〒三一三〇一〇一三三  
常陸太田市久米町二〇一 正念寺内  
編集／茨城東組 青年僧侶の会